

『UH-60JA の訓練飛行再開について』の説明に係る確認事項について

問1. UH-60JAの機体の健全性を確認するための「入念な点検」が完了したとのことだが、「入念な点検」について具体的に示していただきたい。また、防衛省として、当該機における機体自体の安全性についての見解を示していただきたい。

答1.

【入念な点検の具体的内容について】

- 機体の健全性を確認するため、事故原因と考え得る全ての項目について点検を行いました。一般に、事故原因と考え得る機体の異常が発生するとすれば、①エンジン、②燃料、③動力伝達、④ローター、⑤操縦、⑥計器、⑦油圧に係る7系統のいずれかと考えられます。これら全ての系統について、部品に亀裂、破損、取り付け不良等がないか、摩耗状況はどうなっているか等を確認し、また、作動点検等を実施しています。

【当該機における機体自体の安全性について】

- 陸自UH-60JAは平成9年度から配備が開始され、これまで各種訓練のほか緊急患者輸送等の災害派遣に係る任務飛行を行い、陸上自衛隊においては約26年の間運用してきております。また同機種は世界各国でも採用されており、機体そのものに欠陥があるとは考えておりません。
- そのうえで、今般実施した「入念な点検」は、事故の原因として考え得る全ての項目について目視及び作動点検を実施し、部品等を取り外し機材の内部まで点検するなど、通常の点検に比べ細部まで確認することにより、機体の健全性を確認したものであり、機体そのものに構造的な問題があったとは考えておりません。

問2. 「事故調査委員会による分析結果等を踏まえ、対策を講じた上で、段階的にUH-60JAの飛行を再開したい」とのことだが、事故調査委員会による分析結果等はいつ頃明らかになるのか。また、飛行を再開する際は、防衛省から国民へ説明する必要があると考えるが見解について示していただきたい。

答2.

【事故調査委員会による分析結果等の判明時期について】

- 今般の事故原因については、フライトデータレコーダーの解析を含め、事故調査を行っている最中であり、何ら確定的に申し上げられる段階にありません。

【飛行再開時の防衛省からの説明等について】

- 陸上自衛隊からニュースリリースにより、訓練飛行再開に関するお知らせを予定しております。

問3. 「練度維持に最低限必要なものとして、駐屯地内の飛行場及び場周飛行経路における訓練飛行を先行して再開したい」とのことだが、木更津駐屯地周辺の飛行経路下には、住宅地や漁場が存在するが、同駐屯地における訓練飛行の詳細について確認したい。また、訓練飛行はいつから再開されるのか。

答3.

【先行的に再開する訓練飛行の詳細について】

- 今般、災害派遣をはじめ自衛隊の任務遂行に万全を期すとの観点から、安全な飛行を行うため、何よりも、操縦士の操縦技能に係る練度を維持するため、訓練飛行を積み重ねていく必要があるところ、より慎重を期すとの観点から、先ずは駐屯地内の飛行場及び飛行場内外の場周飛行経路における訓練飛行を再開することといたしました。
- 操縦士の練度の維持に当たっては、飛行場内におけるホバリング訓練や飛行場内外の場周飛行経路を活用した離着陸などといった基本操縦技能の練度を維持するための訓練が不可欠であり、この訓練の実施に当たっては駐屯地内の飛行場のみならず、飛行場内外の場周飛行経路についても飛行する必要があります。
- なお、場周飛行経路は、常に目視で管制機関からの指示を受けられる滑走路（駐屯地外を含む）近傍の範囲となっております。これは、万が一機体に不具合が発生した場合には、管制機関の指示を受けつつ、安全に飛行場に着陸することが可能な範囲です。
- いずれにせよ、訓練飛行の実施に当たっては、最新の気象情報などを踏まえ個別の訓練飛行の可否を判断するほか、状況によっては見合わせるなど柔軟に判断しつつ、飛行の安全に万全を期して訓練飛行を実施いたします。

【訓練飛行の再開時期について】

- 具体的な再開日程については、地元自治体等の皆様にも丁寧に説明しつつ、最終的に決定していくこととなりますが、現時点で、早ければ6月中には再開したいと考えています。